

春季特別展

高橋由一から藤島武二まで 日本近代洋画への道

2015年 4月4日(土)～5月17日(日)

江戸時代後期から明治期にかけて日本に流入した文化の一つに、西洋絵画(油彩画)があります。日本人画家たちは、油絵具という新しい素材や写実的な表現に魅了され、その技術を学び、日本における油彩画「洋画」が誕生しました。

本展では、ヤンマーディーゼル創業者・山岡孫吉氏が蒐集した「山岡コレクション」を中心に約130点を展示し、日本近代洋画誕生の歴史を振り返ります。高橋由一、黒田清輝、青木繁など、近代を切り開いた画家たちの足跡をお楽しみください。



高橋由一「鮭図」(部分)
1879～1880年 笠間日動美術館蔵

企画展

新収蔵品展

—平成22年度から平成26年度収蔵資料を中心に—

同時開催：阪神・淡路大震災20年

「明石ゆかりの作家が描いた震災風景」展

2015年 6月20日(土)～7月26日(日)

今回の企画展は平成22年から平成26年に新たに収蔵した資料をご紹介します。明石小学校で発見され、当館で修復した古家新「海峡」、寺島紫明素描や正井和行「卓上」など明石ゆかりの作家の作品をはじめ、たこつぼや漁船で使用していた水筒、いけす「どぶね」などの民俗資料や明石藩士が所有していた槍や薙刀などを展示します。

また平成27年度は阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)20年にあたることから、「明石ゆかりの作家が描いた震災風景」展を同時開催、明石在住の画家福田好克さん「震える月」などを展示します。



古家新「海峡」1934年

夏休み特別企画展

ちひろ美術館コレクション

ちひろと世界の絵本画家たち

2015年 8月1日(土)～8月30日(日)

ちひろ美術館は1977年、東京・練馬のいわさきちひろの自宅跡地に世界初の絵本専門美術館として開館しました。1997年には長野県に安曇野ちひろ美術館も開館、現在コレクション作品数は約26500点にもなり、約30か国、約200名もの画家の作品を収蔵しています。絵本原画としては世界最大を誇るコレクションから、本展では、いわさきちひろをはじめとする国内外の代表的な絵本作家による珠玉の絵本原画約120点を紹介します。



いわさきちひろ「わらびを持つ少女」1972年

秋季特別展

橋本海関・関雪展

2015年 9月12日(土)～10月25日(日)

明石藩の儒学者・橋本海関(1852～1935)は、詩画に秀でた文人、教育者、郷土史家として広く活躍し、多くの書画や著作を残しています。海関の息子・関雪(1883～1945)は、父に学んだ漢学や深い教養を礎に、中国の古典や風景、動物を題材とする日本画の優品を生み出しました。大正時代には明石に別荘を建てています。

海関没後80年および関雪没後70年に合わせ、海関の書や墨画、著作、関雪の書、明石の別荘で描いた絵画などを展示し、父子の生涯と明石の関わりを紹介します。



橋本関雪「野兔図」当館蔵

企画展

発掘された明石の歴史展

～明石の中世～

2015年 11月7日(土)～12月13日(日)

今年で23回目を迎える「発掘された明石の歴史展」は、昨年の「明石の古代Ⅱ」に続いて、テーマを「明石の中世」とし、室町時代に造営されたことが瓦の銘文から明らかとなった明石市大久保町の報恩寺跡の出土資料を中心に、明石地域の鎌倉時代から室町時代の遺跡から出土した遺物を展示・紹介します。いにしへの明石に思いを馳せてください。



報恩寺跡出土鬼瓦

企画展

館収蔵品展 明石藩の世界Ⅲ

2015年 12月23日(水・祝)～2016年 1月31日(日)

平成25年より始まった「明石藩の世界」展は明石藩主越前松平家と幕末明石藩家老を務めた黒田家の資料を市民のみなさまにご紹介するものです。3年目となる今年は明石藩の江戸藩邸の様子を伝える古文書や絵画をはじめ、藩士が用いていた工芸品などを展示予定です。

企画展

くらしのうつりかわり展

2016年 2月7日(日)～3月21日(月・祝)

毎年小学校の社会科・総合学習の一環として開催される「くらしのうつりかわり展」は、昭和時代のくらしの様子を当時の道具や写真などでふり返るものです。小学生だけでなく、さまざまな世代の方にお楽しみいただける展覧会です。

※例年、小学校の社会科の課外学習でご利用いただいています。見学申し込みは9月上旬に開始予定です。詳しくはお問い合わせください。